

大雪山国立公園 歩道維持管理作業 実施計画書

令和元年9月2日版 バージョン1

No. 1

計画者	一般社団法人大雪山・山守隊、上川自然保護官事務所		■ 計画箇所について、計画者と事業執行者が同一である場合はチェック	
担当者	氏名	一般社団法人大雪山・山守隊 岡崎哲三	電子メール	sangakuseibi@potato.ne.jp
			電話番号	0166-84-5115
対象箇所	愛山溪三十三曲り分岐～沼の平分岐 登山口から約2km地点			
作業の目的	過去に石組みで路床保護が行なわれた地点で、登山者の踏圧により法面が崩れている場所がある。施工物があっても適切な利用が行なわれるように、二次侵食からの保護、植生の復元を考えた法面保護と歩行路の設置を兼ねた施工を行なう。			
利用する工法	分散排水工	床止工	土留工	マルチング工
	路面処理工	段差処理工	植生基盤工	その他()
作業予定日時又は期間	2019年9月7日		参加予定人数	約30名
			参加者内訳	参加者の一般公募
				● 実施する : 実施しない
安全対策 (保険の適用、 連絡網の整備等)	・ボランティア保険 ・スタッフは傷害保険、労災			
主な資材とその調達 (予定)	資材	数量	調達方法	
	丸太	17本	現地採取／搬入(計画者の自己資金・寄付・その他)	
	カスガイ	20本	現地採取／搬入(計画者の自己資金・寄付・その他)	
	石材	適量	現地採取／搬入(計画者の自己資金・寄付・その他)	
	玉切り材	適量	現地採取／搬入(計画者の自己資金・寄付・その他)	
道具の貸し出し希望 (自然保護官事務所・森林管理署)	物品	数量	希望先	貸出予定日時
	背負子	10	環境省	8月下旬
				返却予定日時
				9月初旬
位置図(地形図、国立公園の公園計画図、国有林又は道有林の施業計画図など)			登山道管理水準	
			保全対策ランク	A・B・C・ ④
			保全対策ランクは「保全上の課題が顕著ではない区間」となっている。過去に多くの整備がなされ、現在も毎年補修が行なわれている区間であるため大きな課題はほとんどないが、勾配がある登山道であり、登山道への流量はあり、登山者も紅葉時期には増える区間であるため、補修が滞った場合、大きな被害が起きる可能性はある区間だと考える。	
			利用体験ランク	1・ ② ・3・4・5
			石組がハードルになり、雨が降ると本来の歩行路である部分が水に覆われる状況は、大雪山グレード2で想定している一定の歩行の快適性が確保された状態とは言えないと考える。	
※事務局記入欄				
国立公園	保護規制計画: 第1種特別地域			
	利用施設計画: 沼ノ平姿見の池線道路(歩道)			
事業執行者:	環境省	担当部署:	上川自然保護官事務所	
土地所有	国有林・道有林・その他()		担当部署:	上川総合振興局南部森林室
天然記念物	該当あり・ 該当なし		担当部署:	
備考				

課題(問題点・作業の必要性)／ねらい・目標

・流水対策の石組み施工により登山道が歩きにくくなり、法面を歩く利用者が多く、法面の裸地化、崩れが起きている。

・法面保護と歩行路の設置という利用者対策が同時に行なえる施工を目指す。

施工方法(見取図、写真等)



- ・過去に石組ステップ&プール工が行なわれた区間。
- ・石組がハードルになり利用者にとっては歩きにくい。
- ・石組みの崩れも見られるが、石組単体を直しても利用者による踏圧への対処にはならず、侵食は止まらないと考える。
- ・法面保護と利用者対策を同時に行なう施工が必要。



- ・法面脇に木材を固定し、背面に石材を詰めることにより、踏圧防止と土留めを兼ねた施工を行なう。

- ・木材の固定は既存の動かぬ石材に引っ掛けることで、圧がかかるほどにしつかりと固定される作用を利用する。

- ・歩行路の幅は30～40cmとし、流水の勢いを妨げない程度の歩行路とする。



- ・背面に詰める石材は周辺登山道上の浮き石や過去の施工時に使われなく残置してある石材を使用する。

- ・石材が足りないときは、三十三曲分岐～現場までにある倒木の玉切り材を縦に埋めることで石材の

備考

課題(問題点・作業の必要性)／ねらい・目標

施工方法



- ・施工箇所は8mの区間と18mの区間がある。
- ・それぞれ木材を連続して繋いでいくため、8mの区間では5本、18mの区間では10本の丸太材を使用する。
- ・写真では石材は多く見えるが、利用できる登山道上の浮石は少ないため、玉切り材(木材)を活用する。



備考

昨年度の施工状況と評価



- ・2017年度に行なった同様の施工では現在も崩れることなく、登山者の利用と流水の対策が問題なく行なわれているように思われる（長期的に見なければわからない部分もある）。
- ・今回施工は規模的にはこれよりも小さな施工になるが、基本的な考え方やり方はこれを踏襲したものとする。

備考

課題(問題点・作業の必要性)／ねらい・目標

- ・ここ数年間で土壌流出が顕著になっていた場所に置いて
- ・土留め、土壌投入、歩行路の復元を行なう。

施工方法



・登山道上の一部分の土壌が崩れてしまった個所において

- ・これ以上の土壌流出の防止
 - ・流出個所への土壌搬入
 - ・歩行路の復元
- 等を行なう。

・土留め(丸太2本分を使用)を行ない、背面に資材を詰めることで歩行路とする。

・場合によっては小さな木道を設置する。



・施工規模は小さく、長さ80cm程度、深さは60cm程度の土壌流出個所を復元させる。



・土留めをして背面に土壌などを投入して嵩増しし、歩行路を復元させる。

・この場所は4年ほど前まで歩行路となっていたが、一部が崩れることで土壌流出が激しくなってしまった。